

わが

大館というところ。

はじめに

大館市は、秋田県の北部を流れる米代川よねしろの中流域に位置する大館盆地を中心に、北西は白神山地の東側にある田代岳から南は森吉山麓までまたがる場所に位置しています。

米どころであるところから、古くから秋田杉の産地として栄え、明治期以降、非鉄金属の豊富な鉱床が見られ、戦後の高度成長期に掛けては鉱業で栄えまし



毎年4月8日に行われる「忠犬ハチ公慰霊祭」(JR大館駅前)

たが、すべての鉱山が閉山後、鉱業技術を生かした資源リサイクル産業や医療機器・医薬品製造などの健康産業が大きく成長し、本市の経済を支えるまで発展しました。

平成17年6月に、生活圏域をもにす比内町、田代町と合併し、新市制12年目を迎えるところ

大館の観光資源(宝)

大館駅に着くと、忠犬ハチ公の銅像と秋田犬の群像が迎ええます。本市は「忠犬ハチ公のふるさと」です。

秋田犬といえば、昭和6年7月、日本犬では最初の天然記念物に指定されました。そして、天然記念物の指定と相まって、秋田犬を著名にしたのは、昭和7年10

月、朝日新聞紙上に忠犬として報道された「ハチ公」です。その記事は、愛犬家はもちろん日本人の胸に深く感動を与え、秋田犬が広く脚光を浴びるきっかけとなりました。

そのほか、本市には世界遺産である白神山地に属する「田代岳」、市南部に位置する「竜ヶ森」などの山岳のほか、国指定天然記念物の「長走風穴高山植物群落」「芝谷地湿原植物群落」、天然秋田杉美林が見学できる「矢立遊歩道」など、自然資源が多数存在しています。

また、市内には佐竹公の湯治場として歴史ある大滝温泉をはじめ、秘湯や温泉銭湯などバラエティに富んだ温泉が数多く点在しています。特に、日帰り入浴が可能な温泉施設は市内全域に27カ所

もあります。

豊かな大地と豊富な森林資源に恵まれた本市は、その地勢からの地方固有の伝統的な産物をつくり出しました。秋田杉の宝庫である大館の森林からは「大館曲げわっぱ」が、そして、第三期古層腐植土で形成される比内地方の黒土を主としたミネラル分が多い土壌からは日本三大美味鶏として名高い「比内地鶏」が生まれました。

中でも、「さりたんぼ鍋」は大館地方の伝統的な食文化として大館に古くから根付いています。近年は、これらを素材にした体験型ツーリズムや教育旅行の受け入れが盛んになるとともに、大館のおいしい食材を内外に発信する取り組みが活発になっていきます。

歴史的風致維持向上

大館城の跡地である桂城公園に加え、町割りにより配置された寺社が当時の位置に残り、城下町の面影をとどめている市街地や、400年以上続くといわれる大館

神明社祭典、大館アメッコ市などが歴史的風致を形成しています。

これらの歴史的資源に光を当て、市民がふるさとに誇りと自信を持って暮らす社会の実現、日々の営みが風土として大館に息づき、未来へつなぐ景観づくり、文化財の保存と活用、公共施設の整備、伝統的な祭礼行事の再興を目的とした「歴史的風致維持向上計画」を秋田県内の自治体としては初めての策定を進めています。

折しも、平成27年10月、400年前の常陸国から佐竹氏の国替えを縁として、茨城県常陸大宮市と友好都市協定を締結しました。このような歴史的な出来事も加えながら、まずは、大館囃子の音色が響く大館城下を重点区域と定め、田代山神社の作占い、鳳凰山の大字、矢立峠に続く羽州街道、長木川溪谷沿いの小坂鉄道軌道跡、奥州藤原氏の終焉の地、大館曲げわっぱ伝統工芸職人、浅利氏の史跡が残る比内、扇田神明社祭典、十二所城下といった、先人がつくり、営んできた歴史と伝統を生かした「物語づくり」を進め、市民はもちろんのこと、皆が大館を大好きと言えるまちづくりを進めて

いきます。

縦軸と横軸の広域 観光連携

外国人観光客の増加、旅行者の行動範囲の拡大や旅行ニーズの多様化に応じて、広域的に観光地を回す必然性が生じています。行政区域を越えた連携を進めるため、広域的なエリアをカバーする観光地域づくり組織である地域連携DMO (Destination Management/Marketing Organization) を、平成28年4月1日に「秋田犬ツーリズム」を設立しました。

観光におけるさまざまな問題が解決されるとともに、的確な市場調査や観光客の受け入れ体制整備を進め、交流人口の増加を図ることが重要となることから、本年3月に開通した函館新幹線の観光客を見据えた、インバウンド35万人を誇る函館市、みちのくの小京都である仙北市の角館、そして大館市による3つの館(だて)による縦軸と、小坂町、鹿角市、北秋田市、能代市といった横軸を意識した広域連携エリアによる観光地域づくりに取り組んでいます。

本州最多となる6つの国指定天

然記念物、市内27カ所の温泉、石田ローズガーデン、レールバイクといった枚挙に暇がない「大館の宝」の数々を、連携する市町とともに磨き上げ、そして、大館駅周辺に、秋田犬やハチ公をテーマとしたハチ公ミュージアムや秋田犬とのふれあい広場、ドッグランなどの交流拠点施設「ハチ公の駅(仮称)」を整備し、北の玄関口としての機能を高めます。

プロフィール

- ◆ 面積 913.22km²
- ◆ 人口 7万5573人
- ◆ 世帯数 3万1566世帯

〔将来都市像〕匠と歴史を伝承し、誇りと宝を力に変えていく「未来創造都市」

〔まちの特徴〕北東北のほぼ中心に位置する緑豊かな山々に囲まれた歴史と伝統のまち

〔市町村合併〕平成17年6月20日、比内町、田代町を編入合併



大館市長
福原淳嗣



〔特産品〕秋田犬、きりたんぼ、曲げわっぱ、比内地鶏、とんぶり、山の芋、根曲がりタケノコ

〔観光〕秋田犬会館、忠犬ハチ公の生家、大館樹海ドーム、鳥湯会館、長走風穴、大館・小坂鉄道レールバイク

〔イベント〕大館アメッコ市、大館バラまつり、大館大文字まつり、大鮎の里ふるさと祭り、本場大館きりたんぼまつり、肉の博覧会inおだて

最後に、タイトルの「大館というところ。」は、全国の自治体がPR合戦を繰り広げる中、あえて控え目な表現で大館を知ってもらえるよう、秋田県スーパーバイザー梅原真さんが提案してくれました。

控え目な中にも確かな信念を持って、大館の未来創造につなげていくまちづくりに取り組んでいます。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

みなみあしがら 南足柄市（神奈川県）

南足柄市長

かとうしゅうへい
加藤修平

「ちよつと田舎」で、「ちよつと都会」 まちの魅力をシテイプロモーションでPR

はじめに

南足柄市は、神奈川県西端に位置し、都心から約80kmの位置にあります。南東から南にかけては小田原市および箱根町、西は静岡県小山町に接しています。「足柄」の地名は古くから知られ、「古事

記」や「万葉集」にも登場します。

古代、足柄道は都のある西国と東国を結ぶ官道として東西交通の重要な道でした。中世になると「更級日記」や「海道記」の史書にはこの地が宿場町としてにぎわったと記されています。

金太郎のふる里

「金太郎のふる里」として知られる南足柄市は、金太郎が産湯をつかったといわれる夕日の滝や生家の跡、金太郎が遊んだと伝えられている遊び石などの金太郎にまつわる伝説があります。毎年8月には本市最大のイベント「足柄金太郎まつり」を開催し、多くの人でにぎわいます。本年は第40回の記念すべき年であり、例年以上に盛大に開催したいと思えます。ぜひお越しください。

良質豊富な水の産地

箱根外輪山を含む本市は、緑豊かな自然と良質豊富な水をもたらす、平成7年に「全国水源の森百選」、平成8年には「全国水の郷百選」に認定されたほか、1日に約1.3万トンもの水が湧き出す清左衛門地獄池は神奈川県で唯一「平成の名水百選」に選ばれています。本市では将来にわたり良質で豊かな水を活用したまちを形成するため、水のマスタープランを策定し、水を基調としたまちづくりに取り組んでいます。

富士フィルムの発展とともに

かつては田園地帯であったこの地を写真フィルム国産化事業の工場地を選んだのが富士フィルム㈱です。その条件は良質豊富な水が

得られ、空気が清澄で、かつ東京から近距離であることでした。昭和9年の創業以来、80年以上もの時が流れ、本市は富士フィルムの発展とともに伸展してきました。

また、平成14年には、良質豊富な水と、緑豊かで交通アクセスの良いなどを背景に、アサヒビール㈱神奈川工場が竣工しました。安藤忠雄氏が設計した同工場は、里山風景になじむよう、敷地の緑地面積は約50%となっています。工場見学はバス観光やハイキングコースにも設定されており、市内外から多くの人が訪れています。本市を代表する観光名所の一つです。

曹洞宗の古刹「大雄山最乗寺」

本市の観光名所で最も代表的なのが、天狗伝説が伝わる大雄山最乗寺です。草創は応永元年（1394年）で、全国に4000以上の門流寺院を持つ曹洞宗の古刹です。参道の周辺や境内には約17万本ともいわれる杉の巨木が立ち並び、幽玄な雰囲気醸し出



1日に1.3万トンもの水が湧き出す「清佐衛門地獄池」

しています。境内の新緑や紅葉は共に美しく、訪れる人の心を清らかにしてくれます。

箱根ジオパークへの参画

本市は箱根火山周辺地域の地質資源をはじめ、歴史的資源、文化資源が豊富にあります。先ほどご紹介した大雄山最乗寺や夕日の滝なども代表的な資源です。このような資源を活用し、観光の振興や地域の活性化を図るため、箱根ジオパークの参画に向け、これまでジオサイト候補地の選定やジオガイドの養成、住民への周知と啓発などに取り組んできました。本年は4月から夏にかけて箱根ジオパークへの本市の編入審査があり、9月にはその結果が出ます。何としても編入認定を実現し、本市の魅力を多くの方に味わっていただきたいと思っています。

(仮称)「道の駅 金太郎のふる里」の建設へ

地域経済を元気にするための施策として、農業を基盤に6次産業化を支援し、工業、商業、観光など地域産業を活性化するため、神奈川県が進めている県西地域活性化プロジェクトと連携した地域振興の拠点施設となる、(仮称)「道の駅 金太郎のふる里」の建設を進めています。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催の前年には南足柄市と箱根町を連絡する道路も完成する予定です。これが完成しますと、東名高速道路大井松田ICから本市を通り箱根の仙石原へとつながります。これにより、本市から箱根まではわずか30分です。神奈川県内のみならず県外からも多くの人が訪れる魅力ある道の駅にして、本市だけでなく足柄平野全体を元気にしていきたいと考えます。

シティプロモーションの推進

ここまで本市を紹介してまいりましたが、なお一層、本市の知名度を高めたいと思います。そこで、地方創生交付金を活用し、本年3月にはシティプロモーション推進のため、プロモーションブックやポスターを作成しました。内容は、本市の魅力や住みやすさを知っていただくため、実際に都内から移住した方を紹介しています。

この方は、都心で勤務している、通勤圏内に家族で住む場所を

求めています。そして各地に足を運んだ末、決めた土地が南足柄市。「南足柄市の魅力は、自然環境とコミュニティの良さ、水の美味しさ、そして都心へのアクセスの良さ」が決め手となったそうです。

南足柄市はちよつと田舎ですが、ちよつと都会的な暮らしもできます。そのちよつと



夕日の滝びらきでの安全祈願

いいが心地良いまちの魅力を、このプロモーションブックなどで広くPRしてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 77・12 km²
- ◆ 人口 4万3041人
- ◆ 世帯数 1万6246世帯

〔将来都市像〕ひとが集い、ひとがつながり、ひとが躍動するまち 南足柄〔まちの特徴〕神奈川県西端に位置し、都心から約80km圏内。ちよつと田舎で、ちよつと都会 ちよつといい、心地良いまち



南足柄市長
加藤修平



〔特産品〕お茶、イチジク、ミカン、キウイフルーツ
〔観光〕大雄山最乗寺、足柄万葉公園、夕日の滝、足柄森林公園丸太の森、金時山、アサヒビール神奈川工場
〔イベント〕桜まつり、ハナアオイまつり、夕日の滝びらき、足柄金太郎まつり、足柄峠苗まつり、ざる菊まつり

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

交流とにぎわいのまちづくり

はじめに

橿原市は昭和31年2月11日、奈良県で5番目の市として誕生しました。当時の人口は約3万8000人でしたが、現在では約12万4000人に増え、南阪奈道路や京奈和自動車道の整備により、中南和地域の交流拠点都市として大きな役割を担っています。

市が誕生してまだ60年しかたっておりませんが、この地域の歴史は古く、記紀には初代神武天皇が即位した地であることが記されておりますし、694年には、日本で初めての都城「藤原京」が造営され「日本」という国号を初めて国外に発信した場所でもあります。この日本の原点ともいえるべき本市を、地域資源の活用と多様な主体との連携により、誰もが住みや

すいにぎわいのあるまちとして、発展させていきたいと考えています。

「奈良モデル」の推進

本市は奈良県と連携し「奈良モデル」という取り組みを進めています。奈良モデルとは、地域の実情に応じた「県と市町村の役割分担のあり方」について、新たな協力体制や役割分担の方向性を示したもので、県と各市町村とがそれぞれ「まちづくりに関する連携協定」を締結し、相互に連携して事業を進める枠組みです。

この協定により、広域的な観点から市民生活の核となる「駅、病院、公園」などの「拠点」を中心としたまちづくりを進め、県全体として「総合力が発揮できる都市の形成」を目指しています。では、これに関連するいくつか

の取り組みをご紹介します。

大和八木駅周辺のまちづくり

近鉄大和八木駅は、大阪市、京都市、名古屋市の各大都市と直結されている駅で、新型観光特急「しまかぜ」の停車駅でもありません。また、「橿原神宮前駅」を経由して桜の名所「吉野山」ともつな



大和八木駅南側に整備を進める、分庁舎と観光施設などからなる複合施設

がっている市内の鉄道駅のうちで最も乗降客の多い駅です。この駅の南側には、約1100坪の市有地がありますが、この土地を活用して、市民生活に直結する窓口業務を1カ所に集約して総合窓口機能を有した分庁舎と、140室程度の客室を含む観光施設からなる複合施設の建設に着手しました。

この施設の高さは約45mで、周辺には視界を遮る障害物も無く、大和三山や二上山などの山々や奈良盆地を一望できるビュースポットとして、また、シンボリックなランドマークとして、中南和地域の新たなにぎわいの拠点となることが期待されています。

医大周辺地区のまちづくり

市の中央部には、公立大学法人奈良県立医科大学（以下「医大」）が立地しています。医大は、キャンパス移転と大学機能の再編を進めており、これを契機とした新たなまちづくりが動き始めていま

す。また、医大が提唱する「医学を基礎とするまちづくり(MBT)」という独自の構想をベースに、医学の視点を生かした新しいビジネスモデルや製品を生み出すことを目的とした「MBTコンソーシアム」という一般社団法人も立ち上がりました。

本市は、この組織の一員としてさまざまな活動に参画し、産業の振興や雇用の創出を図っていきたいと考えています。

檀原神宮前駅周辺のまちづくり

初代神武天皇を御祭神とする檀原神宮の南西に「新沢千塚古墳群」があります。この古墳群を中心とした区域を緑豊かな憩いの場のようにと、平成24年度から「新沢千塚古墳群公園」の整備を進めてきました。

この古墳群は、昭和51年に国の史跡に指定された県下最大級の群集墳で、お椀を伏せたような形をした古墳約600基が一定のエリアに集中していて、特に、新沢千塚126号墳は、遠くペルシャ地方や中国・朝鮮半島からもたらされた豊富な副葬品が出土した著名な

古墳で、新沢千塚古墳群の代名詞と言っても過言ではありません。

平成28年4月24日には、市民の健康づくりを目的とした「拠点施設」と、地元産の農産物などを販売する「集客施設」の開館式を行いました。「拠点施設」は、この地がシルクロードの東端に当たる神聖な場所であることから愛称を「シルクの杜」としています。

これらの施設が地域住民の多世代間の交流の場として、また、多くの方々に来訪していただけるような観光拠点として、育ってほしいと願っています。

おわりに

本市がある「飛鳥地方」には、古



平成28年4月25日に開館した新沢千塚公園拠点施設「シルクの杜」

代日本の中心的な遺跡群が数多く残っており、平成19年1月には「飛鳥・藤原の宮都とその関連遺産群」が世界遺産登録の暫定リストに記載されました。そして平成27年4月には、日本が国家として歩み始めた時代をけん引した女性たちのストーリー「日本国創生のとき―飛鳥を翔(かけ)た女性たち―」が「日本遺産」に認定されるという、うれしいニュースもありました。

を はじめとする地域公共交通の再編も含め、多くの方々にお越しいただけるような環境整備にも力を入れたと考えております。

本年は「市政60周年」にあたり、檀原神宮では「神武二千六百年大祭」が執り行われた節目の年でもあります。

この機会に多くの皆さまに悠久の歴史と文化に触れていただき、日本のふるさと「かしはら」を体感していただければ幸いです。

プロフィール

- ◆ 面積 39・56 km²
- ◆ 人口 12万3842人
- ◆ 世帯数 5万2349世帯

〔将来都市像〕歴史・文化と人がつくる交流都市

〔まちの特徴〕奈良県のほぼ中央に位置し、行政・経済・交通・教育・文化の中南和地域の拠点都市

〔特産品〕いちご(アスカルビー)、古



檀原市長
森下 豊



都華(ことか)、グリーンアスパラ、鉢花、地酒、飛鳥鍋

〔観光〕檀原神宮、今井町、藤原宮跡、大和三山、檀原市昆虫館、檀原市歴史に憩う博物館

〔イベント〕春の神武祭、檀原夢の森フェスティバル、飛鳥リレーマラソン、檀原市農業祭、エコフェスタ、ロゲイニング大和三山・檀原

※面積は国土地理院「全国都道府市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

未来へつながらる交流都市岩国 若い世代に選ばれるまち

はじめに

岩国市は、平成18年3月に1市6町1村の合併により誕生し、本年度で合併10周年の節目を迎えます。山口県東部に位置し、瀬戸内海国立公園や西中国山地国定公園、清流錦川など豊かで美しい自然に恵まれた、広大な市域を有しています。

臨海部は、紙・パルプ、繊維などの工場や石油・化学コンビナートの



錦帯橋と花火の夜景

が立地する工業都市として発展するとともに、旧日本海軍による岩国飛行場の建設を経て、戦後は米軍岩国基地(米海兵隊岩国航空基地)が置かれたことで基地のまちとして現在に至っています。

錦帯橋

錦帯橋は国指定の名勝であり、日本を代表する木造橋です。

春は桜、夏はうぐいすや花火の夜景、秋は城山の紅葉、冬は雪化粧と、「錦」の名の通り、四季折々の色彩豊かな景観は素晴らしく、日本三名橋の一つに数えられており、その優美なる姿は、市民の誇りであり、本市の象徴となっています。

また、本市では、錦帯橋の世界遺産登録に向けた取り組みを行っています。西洋にも東洋にも錦帯

橋のような木造橋は存在せず、まさに世界随一の木造アーチ橋と言えます。

木造橋の宿命により、創建当時の材料は現存していないものの、約340年もの長い間、岩国の人がこの橋を架け替え続けてきたことに重要な価値があると考えています。

岩国が世界に誇るこの橋を、人類共通の宝にし、将来にわたって美しい姿を守り伝えるために、世界遺産の仲間入りを目指しています。

シロヘビの館

国の天然記念物である「岩国のシロヘビ」の保存に努めるとともに、文化財としての活用を図るため、本年3月24日に錦帯橋に隣接する吉香公園内に「シロヘビの館」をリニューアルオープンしました。

これまでの生体展示のみならず、映像や体験装置などを充実させ、幅広く「岩国のシロヘビ」について楽しみながら学べる施設となつていきますので、ぜひお越しください。

米軍岩国基地

本市では、平成26年度に策定した岩国市総合計画において、初めて「基地との共存」を掲げました。これは、基地との共存に向け、基地に起因する安心・安全対策に取り組みとともに、教育、国際交流、観光振興、防災などの分野でも基地を積極的に活用していこうとするものです。

これまでもさまざまな機会で、日米の相互理解と親善を深めるための取り組みが積極的に行われています。その一つとして、毎年5月5日には、「日米フレンドシップデー」として基地内が一般開放されます。航空ファンや家族連れの方などが、航空ショーや各種イベントを楽しみに全国から訪れて

います。

岩国錦帯橋空港

岩国錦帯橋空港は、米軍岩国基地との軍民共用空港として平成24年12月13日に開港し、開港以来3年連続で国の需要予測35万人を達成するなど利用状況は堅調に推移しており、平成27年9月24日には、空港利用者100万人を達成しました。

こうした好調な利用状況の下、平成27年12月22日には日米合同委員会合意により発着枠が2枠拡大し、これまでの1日4往復から6往復への運航が認められました。これにより、本年3月27日から、「岩国」那覇線の新規路線就航、「岩国」羽田線の1日5往復への増便が実現し、より利便性が高く、魅力ある空港となることが期待されています。

愛宕山地域のまちづくり

国が実施した岩国基地沖合移設事業に必要な埋立土砂の供給を行った約102haの愛宕山地域において、新たなまちづくりを進めています。

この愛宕山地域の約4分の1の

区域については、市が国立病院機構岩国医療センターの移転を核とし、消防防災センターや防災機能を備えた多目的広場の整備による医療・防災交流拠点づくりを進めています。

残りの約4分の3の区域については、国が米軍家族住宅に加え、野球場、インフィールドにサッカー場を有する陸上競技場、さらには和室や調理室を備えたコミュニケーションセンターなどの施設を平成29年ごろの完成を目指して整備しています。

運動施設エリアについては、開門時間中は原則、自由に立ち入ることができ、市民の皆さまも利用可能な施設となる予定であることから、日米交流を通じて、双方の絆をさらに深めることのできる貴重な機会が得られる場となるものと期待しています。

おわりに

本市におきましては、地域活力の向上と人口減少の抑制に向けて、平成27年10月に「岩国市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

地域活力の向上のために、錦帯

橋などの市内の観光資源や岩国錦帯橋空港をはじめとした陸・海・空の交通利便性などを生かして、観光交流の盛んなまちとするとともに、産業面における他都市との交流や基地のあるまちの特性を生かした国際交流などを推進し、人やものの大きな流れを生み出していきたいと考えています。

また、若い世代の人口減少を抑

プロフィール

- ◆ 面積 873.72km²
- ◆ 人口 13万8921人
- ◆ 世帯数 6万6234世帯

〔将来都市像〕豊かな自然と歴史に包まれ、笑顔と活力あふれる交流のまち
岩国

〔まちの特徴〕清流錦川がはぐくむ美しい自然と錦帯橋に代表される歴史ある町並みが残るまち

〔市町村合併〕平成18年3月20日、岩国市、由宇町、玖珂町、本郷村、周東町、錦町、美川町、美和町が対等合併



岩国市長
福田良彦



山口市 ● 岩国市

制するため、若者の就業ニーズに対応した雇用を創出するとともに、結婚から妊娠、出産、子育てまでの切れ目のない支援を行い、安心して子育てのできる環境の整備にも努めていきます。

これからの10年先を見据え、「夢をかたちに」をモットーに、豊かな岩国市の創造に全力で取り組む覚悟です。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。